

2000 年秋季年会

年会プログラム

於 群馬県総合教育センター

2000 年 10 月 5 日 (木) ~ 10 月 7 日 (土)

日本天文学会

日本天文学会 2000 年秋季年会プログラム

場 所 群馬県総合教育センター (案内図参照)

〒 372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町 1-233-2

電 話・FAX 090 - 4387 - 6893 <使用期間 2000 年 10 月 4 日 (水) ~ 10 月 8 日 (日) >

日 程

時刻	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
月日	分 野											
10月4日 (水)	B					記者会見						
10月5日 (木)	A	R. 銀 河		昼 休 み	ポ ス タ ー / ビ ジ ネ ス ア ワ ー	ポ ス タ ー	天 文 教 育 フ ォ ー ラ ム	LMSA 特 別 セ ッ シ ョ ン				
	B	X. 情報/Y. 教育										
	C	L. 太陽系										
	D	Q. 星 間										
	E	V. 地上観										
	F	B. 銀河形成										
	G	A. 突発天体										
10月6日 (金)	A	R. 銀 河		ポ ス タ ー	ポ ス タ ー / ビ ジ ネ ス ア ワ ー	ポ ス タ ー	R. 銀 河		総 会	研 究 奨 励 賞 受 賞 記 念 講 演	懇 親 会	
	B	J. 位置/K. 天力					U. 宇宙論					
	C	N. 恒 星					N. 恒 星					
	D	Q. 星 間					P. 星形成					
	E	V. 地上観					V. 地上観					
	F	M. 太陽					M. 太陽					
	G	A. 突発天体					S. 銀河核					
10月7日 (土)	A	T. 銀河団		ポ ス タ ー	ポ ス タ ー / ビ ジ ネ ス ア ワ ー	ポ ス タ ー	T. 銀河団		特 別 講 演	エ ク ス カ ー シ ョ ン		
	B	W. 飛翔観					W. 飛翔観					
	C	N. 恒 星					N. 恒 星					
	D	P. 星形成					P. 星形成					
	E	V. 地上観										
	F	M. 太陽					M. 太陽					
	G	S. 銀河核					S. 銀河核					
10月8日 (日)	A					公開講演会 (一般対象)						

A 会場 : 講堂 (本館 2 階)

受 付 : 本館ロビー (8:30 から)

B 会場 : 本館 401 号室 (4 階)

ポスター会場 : 体育館

C 会場 : 本館 402 号室 (4 階)

懇親会場 : ニューいずみ

D 会場 : 本館 404 号室 (4 階)

(会場より徒歩 5 分)

E 会場 : 本館 406 号室 (4 階)

ビジネスアワー :

F 会場 : 本館 702 号室 (7 階)

ビジネスアワーには、集会や会合を

G 会場 : 本館 704 号室 (7 階)

開くことができます。

◎講演数・参加費用

講演数 合計 431 うち、

口頭講演 (a) : 237、ポスター講演 (b) : 160、ポスター講演 (c) : 34

基本登録料 : 会員 3,000 円、非会員 5,000 円 (1 講演分の講演登録料を含む)

追加講演登録料 : 3,000 円 (追加 1 講演につき)

年会予稿集 : 2,000 円 (購入希望者のみ)

※基本登録料・追加講演登録料は、会期中に受付にて忘れずにご納付下さい。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 7 会場で併行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 10 分、質疑応答 5 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、4 講演で 15 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守 : 講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、3 日間掲示できます。ポスターは縦 180 × 横 120 cm まで掲示できます。ポスター会場の指定された場所に、10 月 5 日の 8 : 30 から 10 月 7 日の 15 : 00 まで掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。
3. 講演には OHP をご使用下さい。(ビデオ、液晶プロジェクターの使用については、事前に申し込みが必要です。)

◎会期中の行事

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|--------|
| 1. 記者会見 | : 4 日 (水) 13 : 30 ~ | B 会場 |
| 学会講演の中から、3 ~ 4 のトピックスを選び、記者会見を行います。 | | |
| 2. 天文教育フォーラム | : 5 日 (木) 14 : 30 ~ 16 : 00 | A 会場 |
| 3. LMSA 特別セッション | : 5 日 (木) 16 : 10 ~ 18 : 00 | A 会場 |
| 4. 評議員会 | : 6 日 (金) 12 : 00 ~ 13 : 00 | 会議室 |
| 5. 総会 | : 6 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 30 | A 会場 |
| 主な議題 = ○新役員 (理事、監事) の承認 | | |
| ○選挙管理委員の承認 | | |
| ○2001 年度事業計画 (案) | | |
| ○2001 年度収支予算 (案) | | |
| 6. 研究奨励賞受賞記念講演 | : 6 日 (金) 17 : 30 ~ 18 : 00 | A 会場 |
| 7. 懇親会 | : 6 日 (金) 18 : 30 ~ | ニューいずみ |
| 8. 理事会 | : 7 日 (土) 12 : 00 ~ 13 : 00 | 会議室 |
| 9. 特講演 | : 7 日 (土) 15 : 00 ~ 15 : 40 | A 会場 |
| 10. エクスカージョン | : 7 日 (土) 16 : 00 ~ | ぐんま天文台 |
| 11. 公開講演会 | : 8 日 (日) 14 : 00 ~ 17 : 00 | A 会場 |

◎天文教育フォーラム（天文教育普及研究会と共催）

日時・場所：2000年10月5日（木）14：30～16：00 A会場（講堂）

テーマ：『新世紀のプラネタリウム利用を提案しよう』

概要：いま、科学館や博物館などへの入場者数が減少しています。もっとも顕著な例が、プラネタリウム館。例えば、老舗の五島プラネタリウム（東京・渋谷）が来年3月で閉館します。天文教育・普及に大いに貢献してきたプラネタリウムは、もはや、その役割を終えたのでしょうか？いいえ、決してそんなことはありません。例えば、2002年から実施される新学習指導要領の下では、学校5日制の導入などによって、社会教育施設のさらなる活用が求められています。また、大学の授業でプラネタリウムを利用するなどの事例も始まっています。

そこで今回のフォーラムでは、日本のプラネタリウム界の現状を紹介するとともに、全国に300館も存在するプラネタリウム館が、天文教育・普及において今後どのような役割をたし得るのかを、多角的に議論したいと思います。

参加費：天文教育フォーラムのみの参加者は、参加費（基本登録料）は不要です。年会受付で、その旨お伝え下さい。

実行委員：縣 秀彦（国立天文台）、山縣朋彦（文部省）
浜根寿彦（ぐんま天文台）、鈴木文二（埼玉県立三郷工業技術高校）

問い合わせ先：縣 秀彦（h.agata@nao.ac.jp）

◎LMSA 特別セッション

（日本学術会議 天文学研究連絡委員会、同 天文学国際共同観測専門委員会と共催）

日時・場所：2000年10月5日（木）16：10～18：00 A会場（講堂）

概要：『すばる』に続く地上大型観測装置として構想されてきたLMSA（大型ミリ波サブミリ波干渉計）は、日米欧による「国際大型干渉計」として建設を進める方向で現在世界各国で仕様の詰めと予算要求が行われています。このセッションでは、国際的な視野から、その科学的ポテンシャルを他波長の装置とも関連づけながら紹介するとともに、計画の進捗状況をお知らせし、計画推進をより確かなものにするために広く討論する機会を持ちたいと思います。ふるってご参加ください。

世話人：長谷川哲夫（東京大学天文学教育研究センター）

◎特別講演

日時・場所 : 2000年10月7日(土) 15:00～15:40 A会場(講堂)

講演者 : 高部英明(大阪大学レーザー核融合研究センター・教授)

題目 : 「高強度レーザーを用いた実験室天体物理」

概要 : ハッブル宇宙望遠鏡に代表される観測技術の急速な向上により、高度な宇宙・天体物理の理論・シミュレーション研究が要求されて来ている。それは、ミクロな物理とマクロな物理が密に絡んだ複合現象を対象としており、要素物理モデルが妥当かどうか実験による検証を必要としている。星の進化を中心とする天体物理の解明に必要なミクロ、マクロの物理のかなりの部分が、高強度レーザーを用いた実験室での模擬実験で検証し得ると考えている。主に、超新星爆発の多次元流体の物理機構や超新星残骸の爆風波に伴う流体・原子過程。AGNやブラックホール周りや、ガンマ線バーストで重要となる電子・陽電子プラズマ。光電離非平衡プラズマによるX線レーザー天体の可能性などを現在研究している。研究の現状を紹介すると共に、当センターの高出力大型レーザー「激光XII号」を用いた宇宙ジェットの実験結果や、今後の実験計画について述べる。このように、レーザーによる天体模擬実験を物理統合型のシミュレーションコードを介して、天体物理解明とリンクさせていく新たな天体物理の研究分野について、米国の動きなども含め紹介したい。

【参考文献】

- [1] 小特集：高強度レーザーを用いた実験室宇宙物理
高部英明編、プラズマ・核融合学会誌 74, 1254-1309(1998).
- [2] Modeling Astrophysical Phenomena in the Laboratory with Intense Lasers
B. A. Remington, D. Arnett, R. P. Drake, and H. Takabe Science, 284, 1488-1493 (1999).
- [3] A Review of Astrophysics Experiments on Intense Lasers
B. A. Remington, P. Drake, H. Takabe, and D. Arnett Physics of Plasmas 7, 1641-1652 (2000)

◎日本天文学会公開講演会(群馬県、群馬県教育委員会後援)

テーマ : 「現代天文学・宇宙への挑戦！」

日時 : 2000年10月8日(日) 14:00～17:00(13:30開場)

場所 : 群馬県総合教育センター 講堂(A会場)

対象 : 中学生以上・一

講演 I : 「宇宙を考える」

「宇宙を見ない」で「宇宙を考える」とどうなるでしょう？

「星の宇宙」「火の宇宙」「子宇宙」は何に答えようとしているのか？

講演者 : 京都大学・教授 佐藤 文隆

講演 II : 「宇宙を観る」

ガリレオが口径4センチの望遠鏡で宇宙を見てから、400年。

口径8メートルの「すばる」は、宇宙に何を見るだろう。

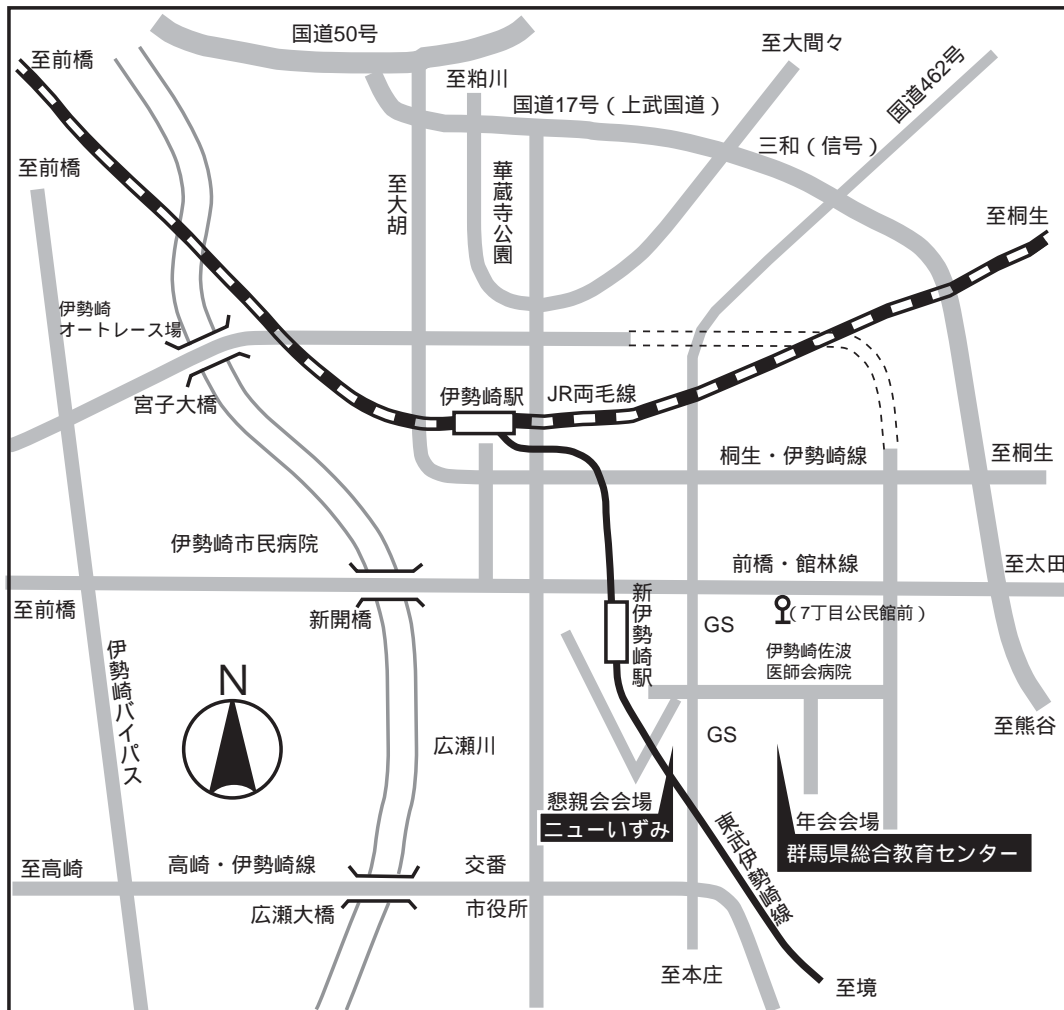
宇宙に「て」は、あるのだろうか？

講演者 : 国立天文台・台長 海部 宣男

※入場無料、事前の参加申し込みは不要です。当日ご自由においで下さい。

ただし、会場の都合で入場を制限する場合がございますので、早めにご来場下さい。

秋季年会会場（群馬県総合教育センター）のご案内



交案内

・鉄道

JR 両毛線／伊勢崎駅下車 2.5km（タクシー約 5 分）

東武伊勢崎線／新伊勢崎駅下車（徒歩約 10 分）

伊勢崎駅発群馬中央バス／太田伊勢崎線 7 丁目公民館前下車（徒歩約 3 分）

東京から

JR 両毛線は高崎線高崎駅、または宇都宮線小山駅で乗換

東武伊勢崎線は浅草始発、北千住経由（浅草駅より約 2 時間）

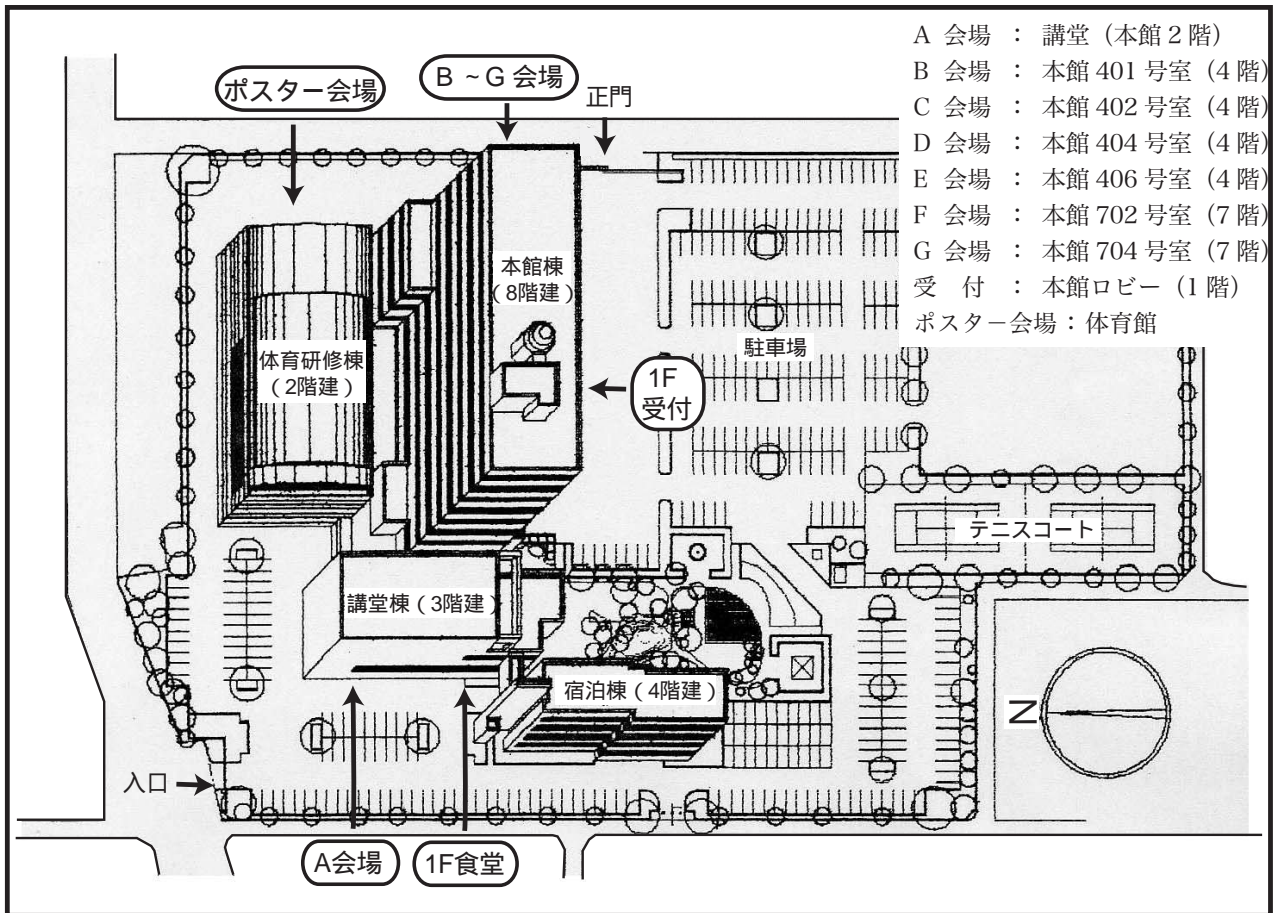
伊勢崎には JR 高崎線本庄駅から 1 時間に 1 本程度のバスの便もある

・自動車

関越自動車道／本庄児 I.C. から 国道 462 号線を利用

会場の駐車場は無料で利用できます

年会会場案内図



エクスカージョン

昨年7月に開設された県立ぐんま天文台へのエクスカージョンを計画しています。県立ぐんま天文台は口径1.5mの反射望遠鏡を中心とした国内有数の規模の天文台で、学術研究とともに広い教育・普及活動も目指しています。

この機会に是非皆さんでお越しください。施設見学の外、晴天の場合は1.5m望遠鏡を用いた観望会を予定しています。参加ご希望の方は下記の連絡先までお知らせください。

なお、自家用車での参加も可能です。この場合は、バスの申込は不要です。ご希望の方はお問い合わせください。また、バス、自家用車にかかわらず、駐車場から天文台までは約600mの遊歩道（徒歩10分）を歩いていただきます。

日 程：2000年10月7日（土）

16時00分 総合教育センター（伊勢崎市）発

17時30分 県立ぐんま天文台着 — 施設見学、1.5m望遠鏡による天体観望、他—

21時30分 高崎駅着 解散

交通手段：バス または 自家用車

連絡先：県立ぐんま天文台（担当：橋本 修）

電話：0279-70-5300, 電子メール：nenkai@astron.pref.gunma.jp

申込締切：バス定員が満員になるまで。詳しくはお問い合わせください。

自家用車利用の場合もお問い合わせください。

口頭セッション

10月5日(木)

時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
	【銀河】	【情報】	【太陽系】	【星間】	【地上観】	【銀河形成】	【突発天体】
09:30	R01a	X01a	L01a	Q01a	V01a	B01a	A01a
09:45	R02a	X02a	L02a	Q02a	V02a	B02a	A02a
10:00	R03a	X03a	L03a	Q03a	V03a	B03a	A03a
10:15	R04a	X04b, X05b X06b, X07b	L04a	Q04a	V04a	B04a	A04b, A05b
		【教育】					
10:30	R05a	Y01a	L05a	Q05a	V05a	B05a	A06a
10:45	R06a	Y02a	L06a	Q06b, Q07b Q08b, Q09b	V06a	B06a	A07a
11:00	R07a	Y03b, Y04b Y05b, Y06b	L07a	Q10a	V07a	B07a	A08a
11:15	R08a	Y07b	L08a	Q11a	V08a	B08a	A09a
11:30	R09b, R10b R11b, R12b		L09b, L10b L11b, L12b	Q12a	V09a	B09a	A10a
11:45	R13b, R14b R15b, R16b		L13b, L14b L15b, L16b	Q13a	V10b, V11b V12b, V13b	B10a	A11b, A12b A13b, A14b
12:00			L17b	Q14b, Q15b Q16b		B11b, B12b B13b	
	昼休み						
13:00	ポスター						
14:30	天文教育フォーラム						
16:00	LMSA特別セッション						
18:00							

口頭セッション

10月6日(金)

時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
	【銀河】	【位置天力】	【恒星】	【星間】	【地上観】	【太陽】	【突発天体】
09:00	R17a	J01a	N01a	Q17a	V14a	M01a	A15a
09:15	R18a	J02a	N02a	Q18a	V15a	M02a	A16a
09:30	R19a	J03a	N03a	Q19a	V16a	M03a	A17a
09:45	R20a	J04b, K01b K02b, K03b	N04a	Q20a	V17a	M04a	A18a
10:00	R21a	K04a	N05a	Q21a	V18a	M05a	A19a
10:15	R22a	K05a	N06a	Q22a	V19a	M06a	A20a
10:30	R23a	K06a	N07a	Q23a	V20b, V21b V22b, V23b	M07b, M08b M09b, M10b	A21a
10:45	R24b, R25b R26b, R27b	K07a	N08b, N09b N10b, N11b	Q24a	V24b, V25b V26b	M11b, M12b M13b, M14b	A22b
11:00	R28b			Q25a			
11:15		ポスター		Q26b, Q27b Q28b, Q29b	ポスター		
12:00	昼休み						
13:00	ポスター						
	【銀河】	【宇宙論】	【恒星】	【星形成】	【地上観】	【太陽】	【銀河核】
14:00	R29a	U01a	N12a	P01a	V27a	M15a	S01a
14:15	R30a	U02a	N13a	P02a	V28a	M16a	S02a
14:30	R31a	U03a	N14a	P03a	V29a	M17a	S03a
14:45	R32a	U04a	N15a	P04b, P05b P06b, P07b	V30a	M18a	S04a
15:00	R33a	U05a	N16a	P08a	V31a	M19a	S05a
15:15	R34a	U06a	N17a	P09a	V32a	M20a	S06a
15:30	R35a	U07a	N18a	P10a	V33a	M21a	S07b, S08b S09b, S10b
15:45	R36a		N19b, N20b N21b	P11b, P12b P13b, P14b	V34b, V35b V36b, V37b	M22a	S11b, S12b
16:00	総会						
17:30	研究奨励賞受賞記念講演						
18:00							

口頭セッション

10月7日(土)

時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
	【銀河団】	【飛翔観】	【恒星】	【星形成】	【地上観】	【太陽】	【銀河核】
09:00	T01a	W01a	N22a	P15a	V38a	M23a	S13a
09:15	T02a	W02a	N23a	P16a	V39a	M24a	S14a
09:30	T03a	W03b,W04b W05b,W06b	N24a	P17a	V40a	M25a	S15a
09:45	T04a	W07b,W08b W09b,W10b	N25a	P18b, P19b P20b, P21b	V41a	M26a	S16a
10:00	T05a	W11b,W12b W13b,W14b	N26a	P22a	V42a	M27a	S17a
10:15	T06a	W15b,W16b W17b,W18b	N27b, N28b N29b, N30b	P23a	V43a	M28b,M29b M30b,M31b	S18a
10:30	T07b, T08b T09b, T10b	W19b,W20b W21b,W22b	N31b, N32b N33b, N34b	P24a	V44a		S19a
10:45	T11b, T12b T13b, T14b	W23b	N35b, N36b N37b	P25a	V45a		S20b, S21b S22b, S23b
11:00	ポスター			P26b, P27b P28b	V46a	V47b, V48b V49b, V50b	S24b
12:00				昼休み			
	【銀河団】	【飛翔観】	【恒星】	【星形成】		【太陽】	【銀河核】
13:00	T15a	W24a	N38a	P29a		M32a	S25a
13:15	T16a	W25a	N39a	P30a		M33a	S26a
13:30	T17a	W26a	N40a	P31a		M34a	S27a
13:45	T18a	W27a	N41a	P32a		M35a	S28a
14:00	T19a	W28a	N42a	P33a		M36a	S29a
14:15	T20a	W29a	N43a	P34a		M37a	
14:30		W30a	N44a	P35a		M38a	
14:45		W31a		P36a			
15:00	特別講演						
15:40	エクスカージョン						
16:00							

【突発天体・突発現象】

A04b, A05b, A11b, A12b, A13b, A14b
A22b

【銀河形成】

B11b, B12b, B13b, B14c, B15c

【位置天文学】

J04b

【天体力学】

K01b, K02b, K03b

【太陽系】

L09b, L10b, L11b, L12b, L13b, L14b,
L15b, L16b, L17b, L18c, L19c, L20c,
L21c

【太陽】

M07b, M08b, M09b, M10b, M11b, M12b,
M13b, M14b, M28b, M29b, M30b, M31b,
M39c

【恒星】

N08b, N09b, N10b, N11b, N19b, N20b,
N21b, N27b, N28b, N29b, N30b, N31b,
N32b, N33b, N34b, N35b, N36b, N37b,
N45c, N46c, N47c, N48c

【星形成】

P04b, P05b, P06b, P07b, P11b, P12b,
P13b, P14b, P18b, P19b, P20b, P21b,
P26b, P27b, P28b, P37c

【星間現象】

Q06b, Q07b, Q08b, Q09b, Q14b, Q15b,
Q16b, Q26b, Q27b, Q28b, Q29b, Q30c

【銀河】

R09b, R10b, R11b, R12b, R13b, R14b,
R15b, R16b, R24b, R25b, R26b, R27b,
R28b, R37c, R38c, R39c, R40c, R41c,
R42c

【活動銀河核】

S07b, S08b, S09b, S10b, S11b, S12b,
S20b, S21b, S22b, S23b, S24b, S30c,
S31c, S32c

【銀河団】

T07b, T08b, T09b, T10b, T11b, T12b,
T13b, T14b, T21c, T22c

【宇宙論】

U08c, U09c, U10c

【地上観測機器】

V10b, V11b, V12b, V13b, V20b, V21b,
V22b, V23b, V24b, V25b, V26b, V34b,
V35b, V36b, V37b, V47b, V48b, V49b,
V50b, V51c, V52c, V53c, V54c, V55c

【飛翔体観測機器】

W03b, W04b, W05b, W06b, W07b, W08b,
W09b, W10b, W11b, W12b, W13b, W14b,
W15b, W16b, W17b, W18b, W19b, W20b,
W21b, W22b, W23b

【情報処理】

X04b, X05b, X06b, X07b

【天文教育・その他】

Y03b, Y04b, Y05b, Y06b, Y07b, Y08c,
Y09c